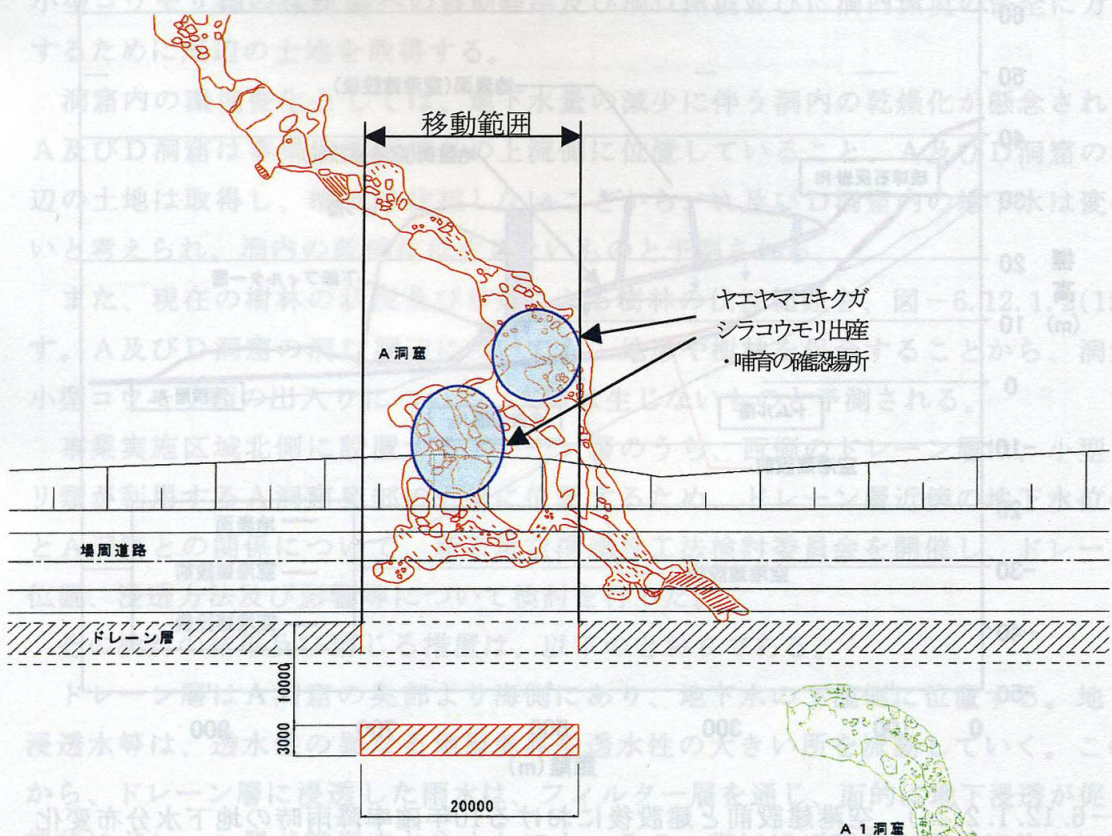


b) ねぐら周辺に於ける自然環境の変化に伴う生息状況の変化

ねぐらとして利用している洞窟は、A及びD洞窟である。A及びD洞窟については、小型コウモリ類の採餌場への移動経路及び洞口周辺並びに洞内環境の保全に万全を期するために、周辺の土地を取得する。

洞窟内の環境は、地下水の減少に伴う洞内の乾燥化が懸念されるが、A及びD洞窟は、地盤に位置していること、A及びD洞窟の洞口周辺の土地は取得し、洞窟内の環境は変化しないと考えられ、洞内の環境は維持される。また、現在の樹林の減少は、洞窟へのアクセスを妨げない。図-6.12.1.2(26)に示すように、A及びD洞窟の周辺に、ヤエヤマコキクガシラコウモリ出産・哺育の確保場所を設けることから、洞窟へのアクセスが確保される。



注. ここに示される計画は概略のものであり、詳細計画の際には変動があり得る。

図-6.12.1.2(26) A洞窟への配慮 (ドレーン位置の変更)

水位低下が見られるものの、A洞窟内の調査結果より、状況とはほぼ同様な水位を示しており、地下水位の変化は認められない。

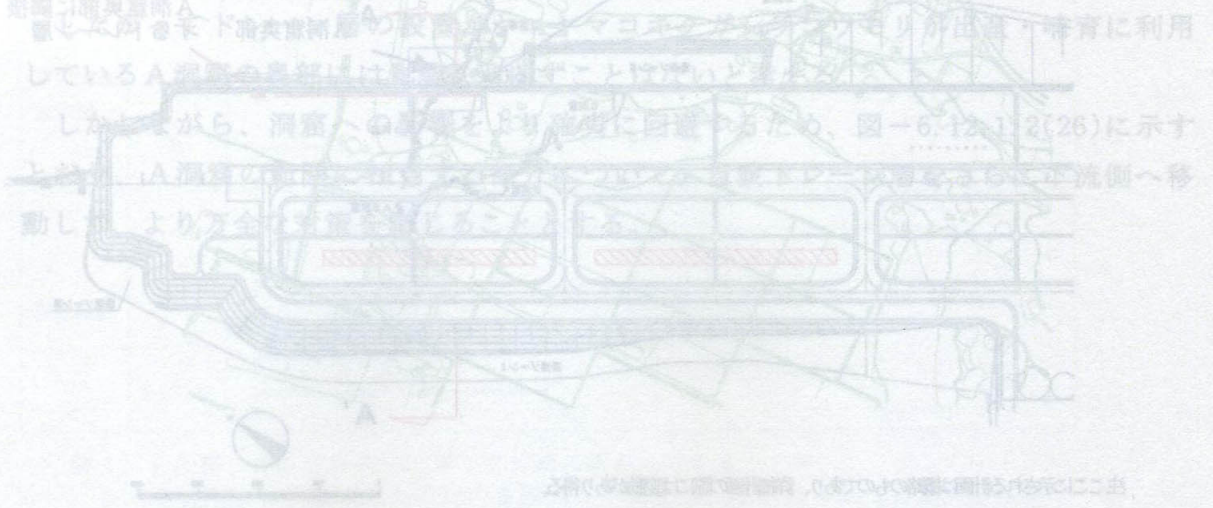


図-6.12.1.2(26) A洞窟への配慮 (ドレーン位置の変更)